第９回
おかやま環境教育ミーティング報告書

令和４年度 協働による環境学習推進事業（岡山県）
おかやま環境教育ミーティング実行委員会

第9回
おかやま環境教育ミーティング

●日　時：2022 年 8 月 5 日（金）　10:00 ～ 17:30
●会　場：岡山コンベンションセンター　1F イベントホール
●ブース出展：26 団体
●進行役：大森哉絵 氏（NPO 法人だっぴコーディネーター）
●参加者：209 名（一般参加者 185 名、実行委員・スタッフ 24 名）
●満足度 91.1 点

参加者の年代、所属、きっかけは以下のグラフの通りであった。（図 1 ～図 3）

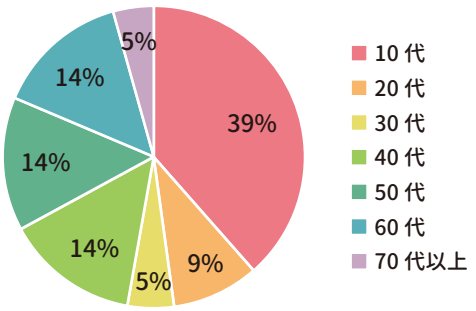


図 1　参加者の年代（回答数 161）

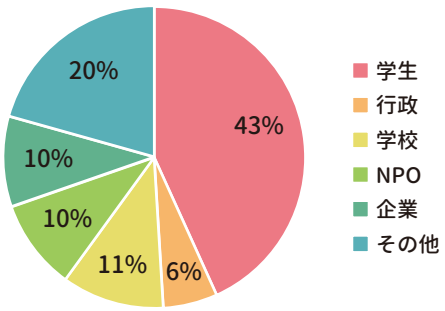


図 2　参加者の所属（回答数 155）※複数選択あり

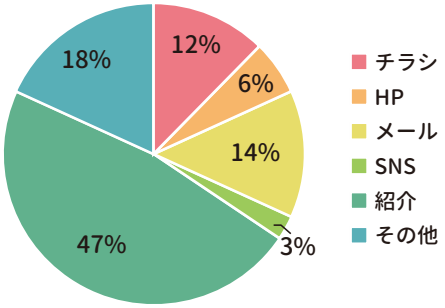


図 3　参加したきっかけ（回答数 154）※複数選択あり

目 次

< 内容 >

スケジュール

9：30　受付開始

10：00　開会挨拶および事務局説明 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　　おかやま環境教育ミーティング実行委員会 委員長 江國友哉
　　かんきょうひろば事務局（ひろば説明、スケジュール、開催目的）

10：15　オリエンテーション ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　　NPO 法人だっぴコーディネーター　大森　哉絵　氏
　　（今の気持ちと今日持ち帰りたいものの確認）

10：30　ブース展示 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　　・活動紹介・自由交流（26 団体）
　　・ブースツアー（3 回 ×20 分、3 コース）

12：15　昼休み

13：15　午後のオリエンテーション（大森氏、事務局）・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　　・動きと分科会の配置図など確認
　　・心構えと全体会のことなど説明

13：35　移動

13：45　分科会 ＜分科会ごとに分かれて話し合い（9 分科会）＞・・・・・・・・・・・・10

15：45　移動・休憩

16：00　全体会（大森氏）＜ふりかえり、わかちあい＞・・・・・・・・・・・・・・・・15

17：15　閉会挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　　おかやま環境教育ミーティング実行委員会 副委員長　林　美帆　氏
　　＜アンケート記入＞

< アンケート結果 > ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

< スケジュール & 実施プロセス > ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

内 容

10:00　開会宣言　おかやま環境教育ミーティング実行委員会　委員長 江國 友哉 氏

・第 7 回より規模をやや縮小してではあるが、3 年ぶりの対面開催ができたことを非常にうれしく思う。
・皆様もすでに体感しているように、今年は記録ずくめの猛暑が続いている。先日のテレビでは、「災害レベルの暑さ」「不要不急の外出を控えましょう」と呼びかけられていた。まさに、いまの地球環境は「緊急事態宣言下」にあると言えるのではないでしょうか。
・そのような中で、「クールチョイス」「グリーンコンシュマー」「アースキーパー」など、個人で取り組めることも多くある。
・しかし、いまここにおられる皆様には、本会を通して、多様な世代の方々、様々なご経験をお持ちの方々と、ともに語り合い、学び合い、つながり合う中で、次の一歩を踏み出すきっかけをつかんでいただければと思う。
・物理的な３密は回避されるべきだが、心の３密は推奨されるべきだと思う。
・皆様お一人お一人が、これからの社会、「グリーンリカバリー、緑の復興」を目指す持続可能な社会の創り手になっていただけることを切に願う。
・最後に、本会を開催するにあたり、多大なるご助力をいただきました皆様に、あらためて感謝を申し上げたい。

▲スタッフミーティング

▲コンベンションセンター 1F イベントホール 準備

▲受付開始

10:05　オリエンテーション　　かんきょうひろばの説明　事務局

・本日のスケジュール
・開催趣旨
・かんきょうひろばについて
・新型コロナウイルス感染症対策について

・この環境教育ミーティングは、かんきょうひろば（岡山県環境学習協働推進広場）が企画している。岡山県内において、環境教育を協働によって推進していこう！と思っている方たちの「つながる場」「学びあい高めあう場」「協働が生まれる場」を目指している。次の未来につながっていくことであるので、SDGs の実現につながっていくと思っている。
・かんきょうひろばは、登録制となっており、地域の団体、環境 NPO、行政、学校・企業などの登録がある。個々に活動していても、現在求められている変化を起こすにはスピードが少し足りないかもしれない。様々なセクターの方が、一緒に活動していく、つながっていくために、かんきょうひろばが設置されている。
・具体的な活動としては、「環境学習出前講座」や、出前講座の講師サポートのための「指導者養成講座」、今日のように情報共有や交流の場を設ける活動を行っている。この年に 1 度の大切な場が「第 9 回おかやま環境教育ミーティング」となっている。
・かんきょうひろばの大きな目的は、持続不可能になっている今の社会を持続可能な社会に変えていくこと。そのために行動できる人材を育成したいと思っている。行動できる人材を増やすだけでなく、今は SDGs のように解決できる人材を育成することが求められている。SDGs を意識しながら、様々な問題が解決されていく、そういう場に今日 1 日がなっていけばと思う。もちろん、今日 1 日だけで解決されるのではなく、今日のつながりが 1 年、2 年、5 年、10 年先につながっていけばと思う。
・ミーティングは今回で 9 回目。これまでも、様々なつながりが生まれて、変化が起こってきている。今回もそこにつながっていけばと思っている。

▲司会　林委員

▲開会宣言及び趣旨説明　江國委員長

▲ひろば説明

10:15　オリエンテーション　NPO 法人だっぴコーディネーター 大森 哉絵 氏

・参加にあたってのチェックイン
・自身の体調や今の気持ち、期待度などをジェスチャーで表現
・参加者同士で簡単な自己紹介
・最後に参加する上で少しでも楽しく、また主体的に学びを得るための心構えを共有

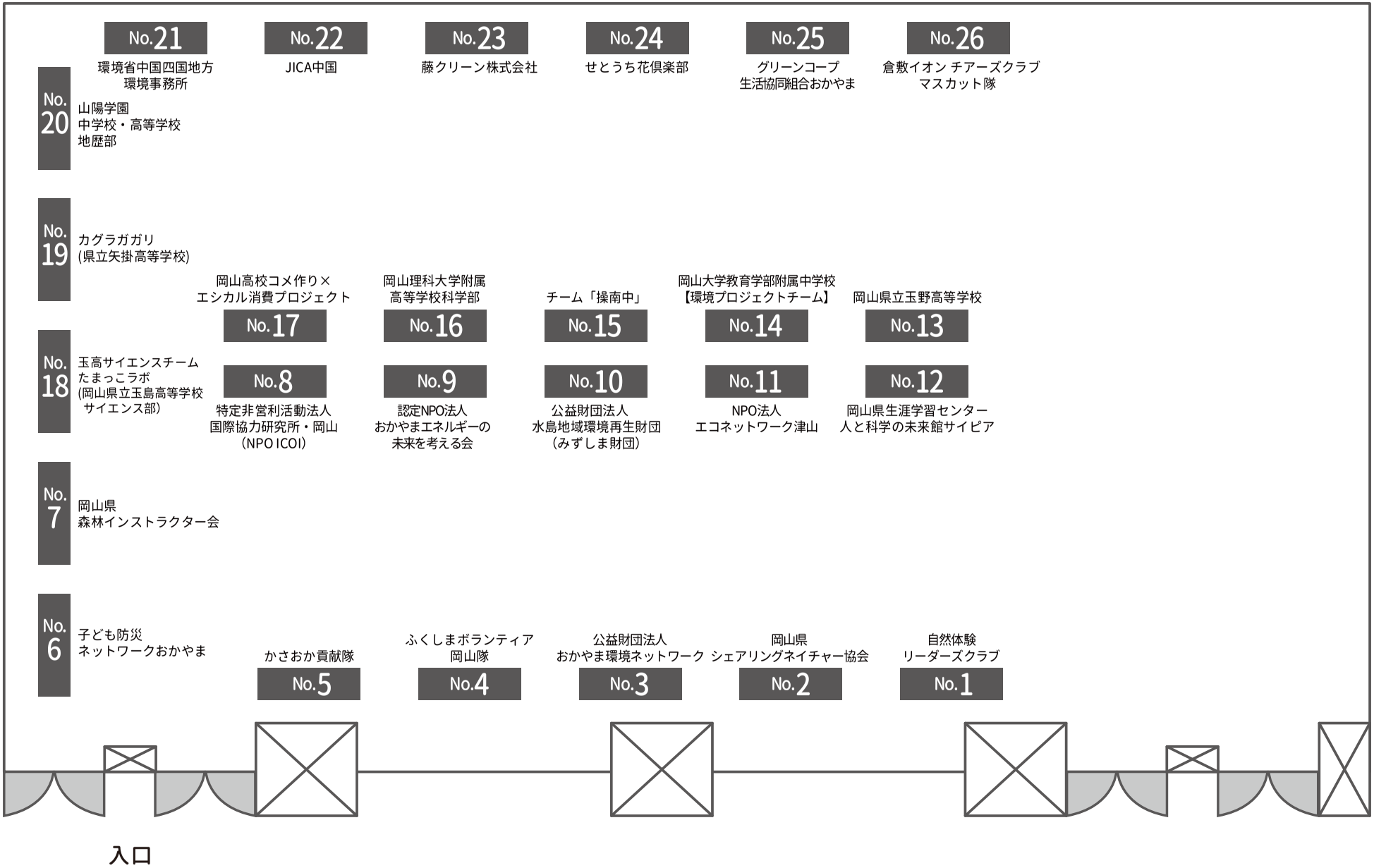
10：30～ ブース展示

・自由交流の場としてブース展示を行った。各出展者の活動紹介や実際に体験できるブースもあり、参加者同士がつながる場として大いに盛り上がった。
・また、ブースツアーとして以下の 3 つのコースに分かれ、それぞれ 20 分ずつ 3 回ツアーを行った。
A コース：温暖化、ゴミ　**B コース**：生き物、SDGｓ　**C コース**：行政、環境教育

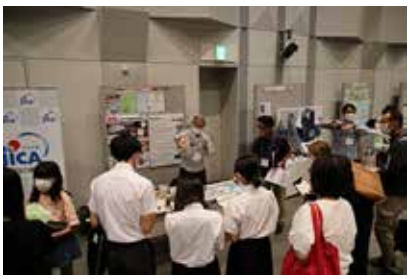
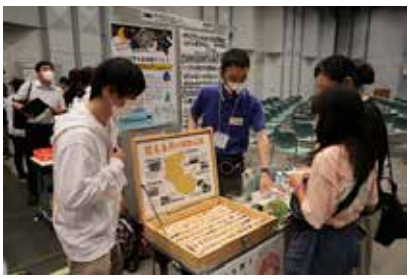
■ブース出展団体一覧（26 団体）

1	自然体験リーダーズクラブ
2	岡山県シェアリング ネイチャー協会
3	公益財団法人 おかやま環境ネットワーク
4	ふくしまボランティア岡山隊
5	かさおか貢献隊
6	子ども防災ネットワーク おかやま
7	岡山県 森林インストラクター会
8	特定非営利活動法人 国際協力研究所・岡山 （NPO ICOI）
9	認定NPO法人 おかやまエネルギーの 未来を考える会
10	公益財団法人 水島地域環境再生財団 （みずしま財団）
11	NPO法人 エコネットワーク津山
12	岡山県生涯学習センター 人と科学の未来館サイピア
13	岡山県立玉野高等学校
14	岡山大学教育学部附属中学校 【環境プロジェクトチーム】
15	チーム「操南中」
16	岡山理科大学附属高等学校 科学部
17	岡山高校コメ作り× エシカル消費プロジェクト
18	玉高サイエンスチーム たまっこラボ （岡山県立玉島高等学校サイエンス部）
19	カグラガガリ （県立矢掛高等学校）
20	山陽学園中学校・高等学校 地歴部
21	環境省 中国四国地方環境事務所
22	JICA中国
23	藤クリーン株式会社
24	せとうち花倶楽部
25	グリーンコープ 生活協同組合おかやま
26	倉敷イオン チアーズクラブ マスカット隊

■ブース展示会場　配置図


No.21
環境省中国四国地方
環境事務所
No.22
JICA中国
No.23
藤クリーン株式会社
No.24
せとうち花倶楽部
No.25
グリーンコープ
生活協同組合おかやま
No.26
倉敷イオン チアーズクラブ
マスカット隊
No.20
山陽学園
中学校・高等学校
地歴部
No.19
カグラガガリ
(県立矢掛高等学校)
岡山高校コメ作り×
エシカル消費プロジェクト
No.17
岡山理科大学附属
高等学校科学部
No.16
チーム「操南中」
No.15
岡山大学教育学部附属中学校
【環境プロジェクトチーム】
No.14
岡山県立玉野高等学校
No.13
No.18
玉高サイエンスチーム
たまっこラボ
(岡山県立玉島高等学校
サイエンス部)
No.8
特定非営利活動法人
国際協力研究所・岡山
(NPO ICOI)
No.9
認定NPO法人
おかやまエネルギーの
未来を考える会
No.10
公益財団法人
水島地域環境再生財団
(みずしま財団)
No.11
NPO法人
エコネットワーク津山
No.12
岡山県生涯学習センター
人と科学の未来館サイピア
No.7
岡山県
森林インストラクター会
No.6
子ども防災
ネットワークおかやま
かさおか貢献隊
No.5
ふくしまボランティア
岡山隊
No.4
公益財団法人
おかやま環境ネットワーク
No.3
岡山県
シェアリングネイチャー協会
No.2
自然体験
リーダーズクラブ
No.1
入口

ブース展示の様子

12:15　昼休み

13:15　午後のオリエンテーション　NPO 法人だっぴコーディネーター 大森 哉絵 氏

・午後のプログラムに向けてチェックインを行った

・午前のプログラムに参加しての今の気持ちや満足度、午後の分科会への期待度をジェスチャーで表現

・最後に主体的に楽しく、学びを得る参加をするための心構えを再度共有した

※分科会の配置と移動については事務局が説明を行い、参加者は受付で伝えられた分科会にそれぞれ移動した（参加する分科会については、申込時の希望を元に事務局にて事前に割り振りを実施）

13:45 ～ 分科会

・分科会は 9 のテーマに分かれて行った。
・それぞれの分科会は、おかやま環境教育ミーティング実行委員を中心に依頼を行った講師またはファシリ テーターが企画と運営を担った。
・一方的に伝える講義形式のようにならないように参加者同士による意見交換を大切にした。
・SDGs のカードゲーム体験の分科会もあれば、大学生が中心に若者を対象にした参加交流型の分科会など多岐にわたる分科会で構成され、それぞれで活発な交流が行われ、楽しみながら学び合うことができた。
・参加者は他者の意見を聞き、自分の意見を発することで、自身の考えを整理して共有する時間となった。

1 SDGs を身近なファッションを通して考えよう。人と地球にやさしい服選びって？

参加者数 16 名

講師：小桐登 氏（おかやまエコサポーターズ）ほか　宇野広大氏（古着屋ループ）、正宗幸子氏（with FASHION co.）

【概要】
・毎日着る服について、綿花の栽培から始まり糸・布・染　色を経 て服が縫製される過程を学んだ。
・私達に不可欠なファッションを環境・人権など SDGs 視点で見直し、人や地球、みんなにやさしい服について一緒に考えた。

【実施内容】
1. ガイダンス　（5 分）～ 13:55
2. 参加者自己紹介タイム　（15 分）～ 14:10
3. 話題提供 1 ＜おかやまエコサポーターズ＞　（20 分）～ 14:30
4. グループ意見交換 / 質問　（10 分）～ 14:40
5. 話題提供 2 ＜古着屋ループさん＞　（20 分）～ 15:00
6. 話題提供 3 ＜with FASHION co. 代表正宗　幸子さん＞　（25 分）～ 15:25
7. グループ意見交換 / 質問　（15 分）～ 15:40
8. まとめ　（5 分）～ 15:45

【まとめ】
・参加者は女性が約 9 割で、若年層の参加が多かった。
・外部の講師を交えて活発的に意見交換が行われており、良い雰囲気だった。
・参加者からは、「ファッションをエシカルの視点で見ることがなかったので、新鮮でした」といった感想が出ていた。

【記録担当者】
神垣匠（環境学習センター「アスエコ」）

2 みんなで一緒に考えよう！気候変動への「適応」！

参加者数 12 名

講師：町村輔氏、砂川淳氏（国立環境研究所気候変動適応センター）

【概要】

世界各地で気温上昇による異常気象や自然災害の多発などの影響が現れている。これに対して対処し、被害を少なくする対策「適応」が重要となってくる。カードゲーム「ミステリー」を通して自分たちにできることを考える。
カードゲームの後、砂川氏による講義、質疑応答が行われた。

【実施内容】

1. オリエンテーション
2. 参加者自己紹介
3. ミステリーのゲーム説明、体験（3グループ）
4. 各グループの発表
5. 砂川氏による「適応」の講義
6. 質疑応答
7. 気候変動適応情報プログラム「A-PLAT」の紹介
8. 岡山県の気候変動対策についてホームページの紹介
9. まとめ

【記録担当者】
湯場俊一（明和製紙原料株式会社）

【まとめ】

- 各グループとも「日本の年平均気温の上昇」カードに注目し、そこから他のカードへ関連が広がっていくという説を立てていた。一見すると関連が薄そうなカードも様々な視点から考えることで、つながりを発見していた。
- 「なるほど」「こういう考え方もできるのでは」等、参加者同士で活発な意見交換が行われた。若者が積極的に発言できるよう場の雰囲気づくりがされた。

3 教えて！生き物が集まる田んぼや畑作り

参加者数 21 名

講師：阪田睦子氏（岡山県自然保護センター）ほか島田夏実氏、三宅舞氏（絵本作家）進行：松本英子氏（自然体験リーダーズクラブ）

【概要】

前半は講師の阪田氏から人の健康や食の安全を目指す有機農業が生物多様性の保全に重要な役割をもつこと等のお話を伺った。その後、生き物が集まる畑作りを実践中の島田、三宅両氏からの質問に阪田氏に答えてもらった。また参加者からも回答や質問等発言してもらった。

【実施内容】

1. 講師、スタッフ紹介・挨拶
2. 阪田氏講義
3. 休憩、実体顕微鏡で堆肥中の微生物観察
4. 島田氏・三宅氏から阪田氏への質疑応答
5. 参加者からの質問、感想

【記録担当者】
澤田謙也（岡山理科大学学生）

【まとめ】

参加者の年齢が幅広く、農業や生き物との関わりや経験もそれぞれ違ったが、そのおかげで参加者が質問するだけでなく回答する場面もあり、思わぬ方向へ話題が広がることもあった。農業が身近な参加者には生き物との関わりを、生き物に興味がある参加者には農業がもつ生物多様性の側面を感じてもらえたと思う。

4　パートナーシップで切り拓く環境教育～学びを自分ごとに～

参加者数 14 名

講師：竹島潤氏（岡山市立操南中教諭、NPO ICOI代表理事）ほか進行：高田恵子氏（岡山市立福田公民館）友延栄一氏（岡山市教育委員会生涯学習課）

【概要】

自分自身の活動をふり返り、思いや悩みを整理してグループ内で交流することから始めた。各グループの様子を全体で交流したのち、講師の竹島氏から連携や協働の事例をお聞きした。その後、講師の先生の話も参考にしながら、現在の様子（悩み・困り感）を解決していくための意見交換をグループ内でし、各グループでの意見交流を全体で紹介し合った。

【実施内容】

1．自己紹介
2．グループ交流①：シートを用い自分の実践を図示した後、成果や悩み交流
3．全体交流①：グループでの交流を全体で共有
4．講師（竹島氏）の講話：「これまでの連携・協働の事例紹介」～どうやってつながり、つなげてきたか～
5．グループ交流②：悩みや困りごとへの解決に向けた取組（付箋方式）
6．全体交流②：グループでの交流を全体で共有
7．まとめ：竹島氏より

【まとめ】

参加者からは、「ネットワークを構築しながら、行政を動かす実践家に出会えてよかった」「自己の取組を俯瞰して捉えたり、客観的にふり返ったりする機会ができ、新たな気づきがあった」「取組を自分なりに整理し、意見をまとめることができた」というような感想があり、パートナーシップで活動を進めていくことの大切さを感じることができた。個人的な悩みに対して、個々に対応することに対しては、やや不十分さも残ったことは今後の課題とも感じられた。

【記録担当者】
高田恵子（岡山市立福田公民館）

5　SDGs の進め方

参加者数 14 名

講師：坂ノ上博史氏（一般社団法人高梁川流域学校）仲輝久氏（倉敷市企画経営室）森田学氏（真庭市総合生産部総合政策課）

【概要】

倉敷市、真庭市、高梁川流域学校の SDGs の取組み、他団体との連携についての話があった。倉敷市では、高梁川流域の新見から倉敷までの市町村が連携しながら SDGs に取組んでいる話があった。また、子育て、まちづくり、教育での SDGs の取組み紹介や連携事例の紹介があった。真庭市では、山を活用した林業の取組みや SDGs 未来都市としての紹介があった。市内の森林資源の循環による資源の有効活用や地域の方が潤い経済の回る仕組み、地域創生に向けた未来都市づくりに向けた取組みの紹介があった。高梁川流域学校では、今行っている活動も重要であるが、100 年後の未来を見据えた活動の重要性についての話があった。経済、社会、環境など様々な切り口で人が関わりつながっていくことが SDGs の取組み拡大に必要であること、また、共通点を探していくことで、様々な課題、国際的、国内、エリア、コミュニティ、私の生活など多くの課題を解決できることについて話があった。グループワークでは、3 班に分かれて、パートナーシップの作り方、困りごとについて、みんなで意見を出し合った。

【実施内容】

13：30～　司会によるオリエンテーション
13：35～　参加者の自己紹介
13：45～　倉敷市の SDGs の取組み紹介
14：00～　質疑応答
14：05～　真庭市の SDGs の取組み紹介
14：25～　質疑応答
14：35～　高梁川流域学校の SDGs の取組み紹介
14：55～　質疑応答
15：00～　休憩
15：05～　全体のワークショップ

【まとめ】

SDGs に取り組むにあたり、一人ではなくお互いに連携していくことが重要であると共有することができていた。「楽しいだけでは、進まない。」、「すり合わせをする事で、関係もよくなり、きっかけもできる。」、「みんなが力を合わせることで、問題も解決できる。」などお互いの関係性作り、問題解決のための障害などに関して、有意義な意見交換を行うことができた。

【記録担当者】
中谷八郎（岡山県自然保護センター）

6　脱炭素社会をめざすために、若者にできることを考えよう！！

参加者数 11 名

講師：岡崎凛奈氏、疋田伊吹氏、山本正一氏、ほか（エネミラユースチーム）
進行：廣本悦子氏（認定ＮＰＯ法人おかやまエネルギーの未来を考える会（エネミラ））室貴由輝氏（岡山県教育委員会）

【概要】

世界中で異常気象による熱波や山火事や氷河の崩落など、頻繁に災害が起こり、多くの人が犠牲になっている。これから若者世代以降は、ますます激しくなる気候変動の影響を受けることになる。本分科会では、エネミラのユースチームが中心となり、「若者にできることは何か」をテーマに意見交換を行った。

【実施内容】

（1）気候変動に関する情報提供
　・気候変動とは　・日本の気候変動対策
（2）グループに分かれて自己紹介
（3）グループごとの意見交換および発表
　・気候変動に対して思うこと
　　気候動対策を進めることは、生活の質を落とすか、質を高めるか
　・太陽光発電をメリット、デメリットをふまえながら、岡山にどのように導入していけばよいか
　・迫りくる気候変動に対して地域でどのように向き合っていく必要があるか
（4）各テーマの意見を聞いて感じたこと

【記録担当者】
山形真由（環境学習センター「アスエコ」）

【まとめ】

本分科会では、テーマ名にもあるように、若者（高校生）の参加が多くあった。大人が色々な情報を提供し、高校生が質問するなど、時間が足りなくなるほど白熱した意見交換が行われた。参加者からは、「色々な世代で色々な考えを共有できて良かった」「改めて気候変動対策をしていかないといけないと感じた」などの感想があり、若者だけでなく、大人も含めて自分たちができることは何か考えるきっかけの場になったと感じた。

7　SDGs の達成に向けて～中学生のチャレンジ！～

参加者数 18 名

岡山市立操南中学校　有志生徒（話題提供）岡山市立操南中学校、NPO・ICOI　江國友哉（ファシリテーター）

【概要】

岡山市中区の操南中学校では、「操南中 SDGs 宣言」をし、学校全体で SDGs の達成に向けて取り組んでいる。特に、学区を流れる四番川のごみ問題に注目し、河川敷のゴミ拾いや、マイクロプラスチックを活用した巨大なアート作品の制作にも取り組んだ。本会では、そのような中学生たちの発表をもとに、参加者と一緒に、「うまくいっていること」や「これからの課題」、「どんな未来を創っていきたいか」について、グループトークを実施した。

【実施内容】

1．参加者の自己紹介
2．講師（操南中生徒）によるスライド発表
3．質疑応答
4．グループトーク
5．まとめ（意見共有）

【記録担当者】
江國友哉（操南中学校／ NPO・ICOI）

【まとめ】

参加者からは、環境問題へのアプローチや人々の意識について、以前と比べて改善されてきたこととして、「マイバッグの持参」や「ゴミ分別への意識向上」などが挙げられた。課題としては「二酸化炭素の排出」や「個人間での意識の差」などが挙げられた。どんな未来にしていきたいかという問いに対しては、「人間も動物も幸せな世界」や「誰かが犠牲にならない世界」、「一人一人が地球レベルで物事を考えられる世界」などが挙げられた。中学生の取り組みに刺激を受け、SDGs の達成に向けて、参加者の意識の高まりが感じられた。

8　木のはなし、木のおはし

参加者数 22 名

講師：稲岡淑子氏、渡辺明美氏（新見の木づかいと木育の会 木の葉art-konoheart-）

【概要】

森林は、私たちが生きていくための環境を守るために、さまざまな役割を果たしている。しかし、今の日本の森林は、国産の木材が使われなくなり、森林の手入れをしなくなったことで、「土砂崩れの原因」や「CO2 吸収量が低下」、「病虫害が発生しやすい」など様々な問題が発生している。本分科会では新見市のヒノキの間伐材を使った MY 箸作りを体験し、「生活の尺度を自然の生産量に合わせた持続可能な社会」について話し合った。

【実施内容】

1. あいさつ
2. 木のはなし（間伐材について（ヒノキ、スギの特徴）/ 森を大切にするといいこといっぱいな話 / マイ箸ブームの歴史 / 今の日本の森のはなし / 木育の取り組み
3. マイ箸づくり
4. まとめ、ふりかえり (SDGs について)

【まとめ】

「間伐材を削って箸を作り、削った木は消臭剤になって、無駄なモノは何もない」や「ヒノキの香りを楽しみながら作れた」といった感想があり、マイ箸作りを体験することで、森林の恵みに触れ、物を大切に使う日本の文化にも触れることができた。
木のはなしは、暮らしの中で使われている樹木の特徴、森林の役割、日本の森林の現状、間伐の話まで幅広い内容だった。「間伐材」を使うことで森の循環が保たれていることを学ぶことが出来たと思う。
SDGs15 の「陸の豊かさも守ろう」と SDGs12 の「つくる責任　つかう責任」がつながる分科会だと感じた。
箸づくりに関しては、木のはなしを入れると 60 分では足りないと感じた。

参加者の声：
- ただの棒が世界に一つだけの箸になった
- 間伐材を削って箸を作り、削った木は消臭剤になって無駄なモノは何もない
- 花粉症であったが、ヒノキ・ズギへのイメージが変わり好きになった
- ヒノキの香りを楽しみながら作れた
- 間伐材を使うことが環境を守ることに繋がることがわかった

【記録担当者】
多田理恵、山口陽子（環境学習センター「アスエコ」）

9　「お互いさま」の心で地域に広がるコミュニティフリッジ

参加者数 15 名

講師：新宅宝氏（一般社団法人 北長瀬エリアマネジメント）

【概要】

近年、フードロスや貧困の問題解決で期待されているのが「フードシェアリング」。海外では、例えば「コミュニティフリッジ（公共の冷蔵庫）」を設置し、その場所を介した食品の寄付や必要とする方へ食品の提供が行われている。国内では、岡山県岡山市北区北長瀬にコミュニティフリッジを設置・運営する団体があり、今回はこの取り組みの話を聞きながら、社会問題に対して自分たちに何ができるのかを考えた。

【実施内容】

1. 参加者・話題提供者の自己紹介
2. 話題提供者（新宅氏）による北長瀬エリアマネジメントの取り組み紹介
   - 一般社団法人　北長瀬エリアマネジメントの紹介
   - 北長瀬コミュニティブリッジの紹介
   - 北長瀬コミュニティブリッジの 5 つのポイント
   - 北長瀬コミュニティブリッジの寄付者について
   - 寄付のあり方について
3. グループ内で感想や疑問を共有・発表
4. グループ内で「自分たちにできること」を話し合い・発表

【まとめ】

本分科会では「フードロス」や「貧困」に対する解決アプローチの一例として、講師から「コミュニティフリッジ」の仕組みや実際の設置･運用事例についてお話いただいた。ここでは、参加者の多くが、コミュニティフリッジを初めて知る機会となった。
後半は講師からの問い「これらの社会問題に対して自分は何ができるか」について、参加者同士で話し合いが行われた。講師からの「寄付の形には有形のモノだけでなく無形のモノ（技術・意識ほか）もある」話もヒントに、参加者からは様々な案や気付きが発表された。
例）給食の量が多い時は事前に量を減らす。

【記録担当者】
多田正和（環境学習センター「アスエコ」）

16：00～ 全体会

15:45　移動・休憩

16:00　全体会　NPO 法人だっぴコーディネーター　大森 哉絵 氏

[内容]

- 異なる分科会同士になるように６人組程度のグループに分かれて交流を行った
  （グループは、移動先の番号が名札に記載してあり、多様な構成になるように注意した）
- 最初に参加にあたってのチェックイン
  （今の気持ち、分科会の満足度、全体会への期待度などをジェスチャーで表現）
- 参加者同士で簡単な自己紹介をした後に、1 日の「ふりかえり」と「わかちあい」として以下の設問に対してキーワードを書き、グループ内で意見交換を行い、1 日の学びや気づき、想いについて一人一人整理し共有した。
  ① 参加した分科会のキーワード３つ
  ② 改めて、環境教育で大事にしたいと思ったこと
  ③ 自分にできること＋そのために、今の自分に必要だと思うこと
  ④ 今日一番の収穫だと感じたこと＋今日の感想
- 共有したことを自ら発表したい方やグループ内での他薦により、書いた内容や想いを会場全体に向けて発表、共有した。中学生などの若い世代の発表が多くあったことから、会場全体が活性化し、多くの意見が交わされた。

17:15　閉会挨拶

環境教育ミーティング実行委員会　副委員長　林 美帆

・昨年度のミーティングはオンラインでの開催となった。今年度はコロナ禍であるが、沢山の皆様と対面でこのミーティングを実施できたことを本当に良かったと思っている。
・オンラインで実施した昨年度もとても熱量のあるミーティングとなったが、対面開催となった今年度はさらに熱量を感じた。
・高校生、大学生というユースの世代が、一生懸命、環境活動を行い、発言をすることが自然とできていた。これは岡山県が ESD の活動を続けてきている結果だと思う。岡山県の皆様は誇りに思っていいことだと思う。
・環境教育とは、自然や環境について学ぶだけでなく、双方向の学びが大切になってくる。双方向ということは、トップダウンではなく一緒に進めていくということで、環境教育を通じてその訓練をしている。
・現代では、効率的なトップダウンの方が良いという考えがある一方、本ミーティングで環境教育について双方向で意見交換を行っていることは本当に素晴らしいことだと思う。面倒だけれど楽しいという経験を環境教育の場で体験することは、戦争のない世の中を作っていく、公害がない世の中を作っていくことにつながっていくと信じている。
・色々な世代、多様な人たちと、お互いの価値観を認め合いながら、楽しく議論していく経験自体が、岡山県の人材を豊かに育成することにつながると思う。この力を、岡山県だけに留めるのではなく、世界に発信していけたら思う。

アンケート結果（回収 161 人）

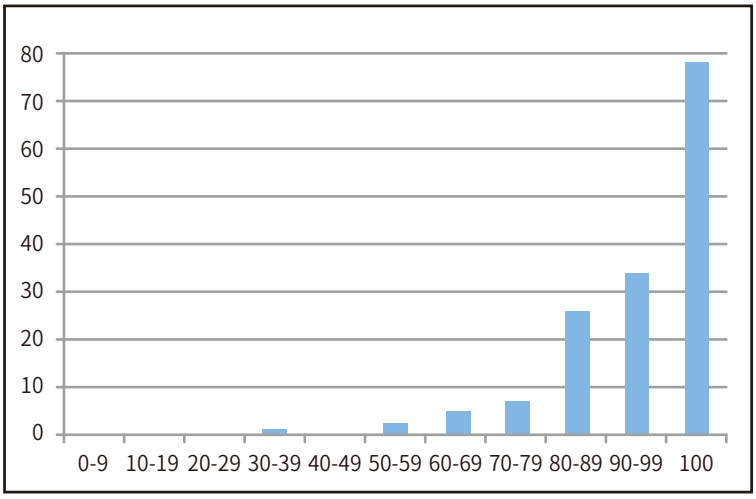
Q．本ミーティングに参加された目的や期待することを教えてください。

【コメント（一部抜粋）】
・環境に関する知識を得て、更なる成長につなげる為。
・他団体さんとつながり、知識を伝えたい。
・環境の情報収集、環境の取り組みをされている企業、団体との関係づくり。
・自分たちの活動を見てほしかったことと、他のブースを見て新しい発見をしたかったから。
・自分達が SDGs に対して研究したことを発表する目的。今回学んだことを今後の生活に活かす。
・環境についての新しい考え方や、色々な人の考えを学ぶ目的で。
・環境のことについてもっと知りたかったから。
・活動内容を知ってもらう、自分の学びの為。今後の活動の目標を決める！
・他団体の取組を学ばせていただくとともに、協働でできる先を見つけることができればと考えて参加しました。
・私達が学校で行ってきた活動を皆さんに知っていただき、意見交換ができればと思ったため。
・環境に対して (地球保全のための) 活動をされている人や意見を知り、繋がりを持つため。
・自分の活動を発表するとともに、どうやって計画を行動に移していくのかということを考える。
・環境問題に興味がある生徒への支援や探求活動の推進に少しでも対応できるように学びたいと思った。
・自分の学校で今までしてきた活動をより多くの人々に知ってもらう。他の方々は、どのような活動をしているのかを知り、次の活動に繋げていくための柱としたい。
・生徒の活動を知ってもらい、アドバイス、助言などいただくため。
・環境について興味のある人同士で話し合ったり、自分とは違う意見の人達の話を聞いたりしてより環境についての活動を進めたいと思ったから。
・自分達の活動を広める為だけでなく、他の企業や学校の活動を見て知識を増やしたり、新たな発見ができるようにしたい。
・日頃の自分たちの取組をぜひ、一人でも多くの方々へ知っていただきたかったので、他の方々の活動も知りたかったので。
・人前で発表する力を育てる為。他の学校の様子を見る。

Q．本ミーティングの内容は、あなたの目的や期待を 100 点とした場合、何点でしたか？　また、その理由を 教えてください。

【理由（一部抜粋）】
・いろんな方と出会えました！全てのブースをまわりきれず残念！
・皆さんの対応もすごく親しみやすかったし、いろんなことがしれました。自分たちも楽しかったです。
・自分が聞いた事に対してすぐに答えてくださったし、話しやすかったし、よく聞こえた。楽しかった！！
・SDGs が進んでいることが実感できた
・「振り返り」がサイコーでした！やはり、想いを伝え共有する時間こそが大切だと痛感。また、共感できる仲間が居ることの幸せさといったら言い尽くせません。

◆ 参加者の大部分の方から 90 点以上の評価をいただいた。（平均 91.1 点）

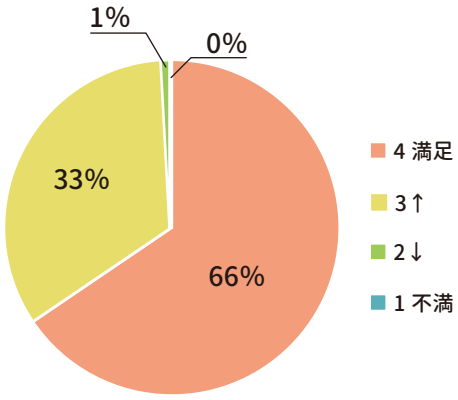


点数の頻度分布（回答数 155）

・このミーティングを通して色々な人と出会って学んでやる気が満ち足りたような幸せな気分になれ嬉しかったし、
目標も達成できたので満足です。
・自分たちの思いを共有できた
・ブース展示や分科会で色々な人と沢山意見交換できた。
・初めましてな人とお話ができて楽しかったです。
・学生の方の自主性をとても感じる事ができた。多くの方と繋がることができ、今後の環境学習の参考となりました。
・具体的な活動を通して、どう環境を維持していくか自分なりの考えを持つことができた。
・得るものが沢山ありました。全ブースを見てまわれなかったのが残念。
・ブース、分科会、全体会を通じて色んな話が聞けた。新たな出会いに感謝！
・色々なブースをみてまわったり、分科会に参加することで自分事として考えることが大切だと分かったから。
・色々な人と話し合うことができ、交流をすることができたので良かったからです。
分科会では詳しい話もきけてよかったです。
・初めて参加しましたが、世代を超えて色々な話、会話ができたことが大きな収穫でした。
・SDGs の事だけではなく、公害や自分達が取り組んでいること (お米のお話など) を聞けたから。
新しい知識が追加された。
・SNS で繋がることができ、今後の活動に大きな影響を与えてくれるきっかけの場となった。
・若い世代の人たちの意識の高さに日本の未来を感じました。
・分科会が思った以上に楽しかった。

Q．ブース展示について感想をご記入ください。

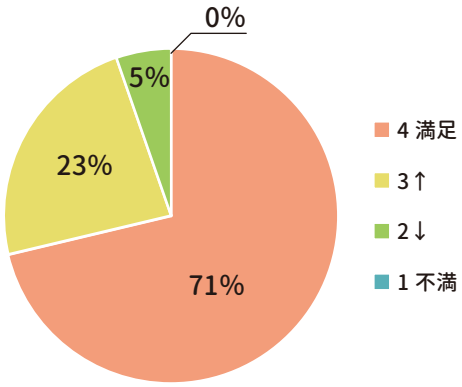
【感想（一部抜粋)】
・色んな所を見れて興味深かった。
・同じテーマでも団体によっての取り組み方も違い、参考になった。
・様々な環境問題に対する話や自分達の考えを分かりやすく話して
くれたのでとても楽しかったし為になりました。
・話だけじゃなくて、実物が見れたり、さわれたりして優しく
分かりやすかったのでとても良かったです！
・充実していました。
・海ゴミや防災、ロスエネルギー等かんきょうを守るための工夫や挑戦、
試みを色々と活動を行っていてすごいなと思いましたし、自然のことで
自分にも何かできないかなと考えるきっかけにもなりました。



ブース展示の満足度（回答数 116）

・目新しい物ばかりで興味深かった。
・多くの参加者に対してどのようにしたら伝わりやすいか、興味を持ってもらえるかなどを意識して考えながら、ブース
展示を行うことができた。また、他のブースにも立ち寄ってどのような活動を行っているのかについて様々なことを
知ることができた。
・全てわかりやすく説明してもらってとても良かった。
・活動が色々あることが分かり良かった。
・様々な取組が各学校、企業、ＮＰＯなどで行われていて、大変刺激を受けました。１人１人の熱意を感じる事ができました。
・活動の PR ができてありがたかった。
・ツアーは良かったです。
・多くの学校や企業などがそれぞれでしている事を分かりやすく伝えてくれたり、自分達もこんなことがしてみたいなと
思える事があってとても良かった。
・ほぼ全部のブースに行きましたが、どのブースもオリジナルな感じでとてもよかったです。

Q. 分科会について感想をご記入ください。



分科会の満足度（回答数 102）

【感想（一部抜粋）】

〈分科会 No. 1〉SDGs」を身近なファッションを通して考えよう。人と地球にやさしい服選びって？

・ファッションと SDGs の結びつきについて知らなかったことをたくさん知れた。
・ファッションの裏や問題が良く学べました。
・ファッションについて古着屋のオーナーさんや講師の方とお話ができてとても良かったです。
・ファッションの視点から SDGs を考える→幅広い (奥が深い) と思った。
・複数の講師で豊富な話題提供できた。
・様々な立場からの意見が聞けてとても良かったです。
・自分と同じような課題や目的を持った方が中学生から親世代の方までいて活動の幅を広げることができそうなのですごく光栄です。
・楽しかったです。1 着の服を作る事がかなり環境に負担をかけていることに驚きました。

〈分科会 No.2〉みんなで一緒に考えよう！気候変動への「適応」！

・ゲームみたいなものからスタートしたので楽しくできた。
・気候変動への適応についてもっと深堀して考えたいと思いました。
・環境の難しさが分かった。
・砂川さんの話がとても良かったです。「適応」どう考えるかを初めて知りました。そこにビジネスチャンスがあると思いました。
・「ミステリー」で気温上昇が様々な問題に結び付けられているのが分かってよかった。適応の重要性を知り、私たちにできることを実行して行きたいと思う。

〈分科会 No.3〉教えて！生き物が集まる田んぼや畑づくり

・今までの自分にはない、新しい情報、価値観、視点を取り入れることができた。
・今まで知らなかった情報や体験でしか得られないお話を聞けて大変満足でした。
・自然農の具体的な取組について知ることができてよかったです。
・微生物と他のものの関りを知れたので良かった。
・本当にいい畑とは何なのかを考えさせられるような内容で良かった。

〈分科会 No.4〉パートナーシップで切り拓く環境教育～学びを自分ごとに～

・「繋がる」ための方策や具体策のヒントを頂くことが出来ました。他分野での環境教育の推進に改めて感心いたしました。すばらしい！！
・参加者の方と交流しながら情報を共有でき良かったです。
・他業種の方と課題について話し合い、解決の手口が見えた気がします。
・協働に向けての良いイメージを持つことができた。

〈分科会 No.5〉SDGs の進め方

・ワークショップでみんなが楽しそうに話せた。
・「SDGs の進め方」としてパートナーシップや地域の SDGs の進め方活かし方を知ったり、意見の共有をしたりして (問題点やパートナーシップの円滑を始め方等) より考えが深められたので良かったと思いました。
・真庭の取組興味深かった。倉敷市、高梁川流域で学校の取組は分かりやすく新しく知ったことがあった。
・行政のパートナーシップについて学べ、ワークショップも良かった。
・パートナーシップを作る方法などについて意見を共有することができて良かった。

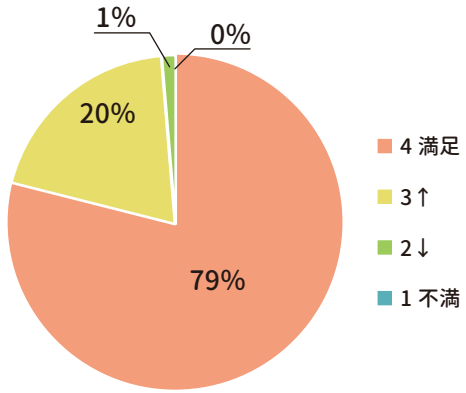
〈分科会 No.6〉脱炭素社会をめざすために、若者にできることを考えよう！！
・色んな世代がいて、それぞれの立場で話し合いができたことが勉強になった。
・高校生達の活動や取組に感動しました。
・高校生から大人まで多様な人たちと話し合え非常に充実していた。
・年齢も立場も異なる方々の様々な意見を伺うことができ、いい刺激になりました。
・色々な世代の方と考えや情報を得ることができて、とても為になり、良かったです。

〈分科会 No.7〉SDG s の達成に向けて～中学生のチャレンジ！～
・中学生の取組が素晴らしいと思いました。
・SDGs の中学生の取組、新たな知識を得ることができた。
・それぞれの取組を知れて本当に良かったです。皆さんの発信する力がとても大きく勉強になりました。
・一致されたゴールに向かい、一人ひとりができることを見つけ一歩踏み出すことの大切さが分かりました。
・新しいことを知ることができました。

〈分科会 No.8〉木のはなし、木のおはし
・自然の大切さや物づくりの楽しさが分かった
・マイ箸を製作して森林の大切さを知ることができた。
・日本の森林について知らないことを深く知ることができた
・割り箸が悪いわけではない、日本の森林を大切にしたい。
・新見市の今の森林状況を知る事ができた。マイ箸はこれから使っていきたい。

〈分科会 No.9〉「お互いさま」の心で地域に広がるコミュニティフリッジ
・自分達のできることについてなどしっかり考え、ディスカッションができました。
・おすそ分けの文化の発展だと気付いた
・フードロスについて大きな問題で解決していきたいと思った。
・課題と解決策が具体的に示された

Q．全体会について感想をご記入ください。



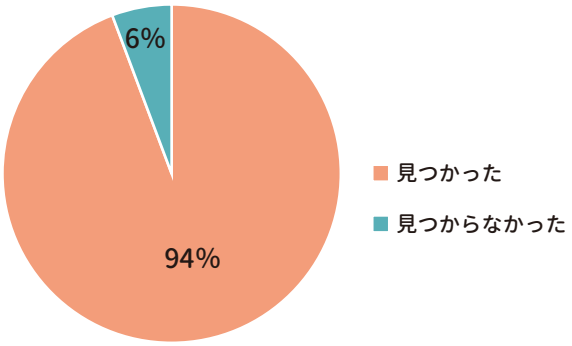
全体会の満足度（回答数 101）

【感想（一部抜粋）】
・若い人たちの発言に感心した。
・めちゃめちゃ楽しかったです。
・今までの事をまとめてグループで、みんなと話し合うことで自分だけで得ることができなかったことを得られたので良かったなと思いました。
・全く接点のなかった人たちと沢山話をしたり、意見交換することができてとても楽しかったです。
・ブース展示や分科会で様々な人の様々な取組について知ることができた。今後の学校での予習や部活動でも学びを生かしていきたい。
・今回の学びを深めることができました。今後の取組に役立てさせていただけると思いました。
・十人十色な意見を得ることができた。
・意見を出しやすい雰囲気の中で自分の考えが深まりました。多くの学びや意識の持ち方を感じました。
・世代を超えて話ができて良かった。
・各分科会の内容を知ることができた。今日の皆さんの収穫を知ることができたことが収穫でした。
・よく考えられていました。若人の声が聞けて良かった。
・とってもいいお話が聞けました。ありがとうございます。
・色々な立場の人と沢山お話ができてとても楽しかったし参考になりました。
・少人数での対話、進め方が良かった。
・楽しく振り返りをすることができました。上手に盛り上げてくださり助かりました。
・会が進むにつれ会場の熱意が上がっていくのを感じました。

・最後の発表の場で若い人の勢いと元気があり驚いた。
・振り返りが充実していて前向きな気持ちになれた。
・色んな人と関われる機会でとても良かった。自分にはない考えを得られた
・今日学んだ事を交流することができてよかった。行っていない所のことも聞くことができてよかった。
・普段話したことのない人達と話せたりしてとても楽しい時間になりました。
・もっと話し合いたかったです。話し合う (様々な方との交流) ことが実りのある物になりました。
・全体会の全員の思いが熱く、それだけで来てよかったとおもえる程いい機会になった。
・多くの人と気持ちに寄り添うことができ、すごく元気をもらいました。ありがとうございました。
・分科会などとは違い、色々な体験をしている人たちのお話を聞いたり話したりすることで、新しいものを得ることができました。
・大人の方の本格的な環境についての話が聞けてとても充実した時間になりました。
・素晴らしい会でした!!
・アットホームな感じが良かったです。
・さまざまな分科会のことまで知ることができてよかった。

Q. 本ミーティングで、新しいつながり、知識、スキルなどが見つかり、あなたの次のアクションについて、手ごたえやヒントが見つかりましたか？見つかった場合、よろしければ、その内容を教えてください。

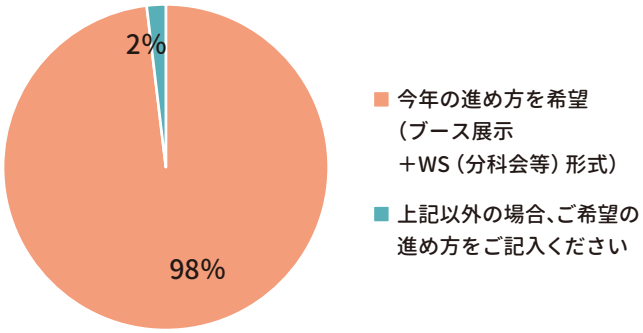
【見つかった手ごたえやヒント（一部抜粋)】
・今まで、主に「ゴミ」の問題について考えていたけど、森と人とのつながりが薄くなっていることが分かった。
・市民の新電力、新しい自然体験、学生さんのパワーなど
・自分の研究の目指すところを明確にしなければならないと知れた。自分の知っていることより知らないことの方が多く改善点も知ることができた。
・農業と多様性について
・環境学習と続けていくことの大切さを改めて感じました。
・地元の取組を知れたこと、「適応」という考えを知った事などです。若い方の活躍も素晴らしいです。
・協働できる仲間がたくさん見つかりました。
・パートナーシップについて改めて考える機会となった。
・沢山の関係団体と繋がれました。ありがとうございました。
・話し合いで、支えて協力するということを学んだ。たくさんの人に伝えたい。
・学校で広めていきたいと思った。
・より多くの人とのつながりや話を聞いている中でこれからの活動で使えそうな案がいっぱい浮かんだ。
・学校と回収したプラごみのリサイクルに取り組みできるかも。
・大学での学びをアウトプットする場を得られそうです。
・イベントに呼んだり呼ばれたりするつながりができました。
・人とのつながり、世界中で同じ想いを持って取り組んでいる各々の情報
・どの分科会やブースの方々も自分たちの取組を活き活きと話されており、まずその本人が「やりがい」や「楽しい」と感じていることがすごく伝わってきた。そういう人たちの話や考え方を聞いて私自身も元気とパワーをいただきました。
・物事の様々な見方を知ることができた。
・色々な企業の人と知り合うことができた
・地域連携の大切さを再認識しました。
・環境教育としてどのようなことを大切にすれば良いのか。その方向性を再確認できたのが良かったです。



あなたの次のアクションについて、
手ごたえやヒントが見つかったか（回答数 105）

Q．次回開催時の進め方について、どの進め方を希望されますか？

【今年の進め方以外の場合、ご希望の進め方（一部抜粋）】
・今回の進め方でいいと思います。
・スムーズな運営でした。
・参加者のブースが多様な為、前もって課題を持ち寄って下準備する。
・今回初めて参加させてもらい会場の（規模）もいいくらいだと思うし分科会の人数も良かった。
次回も参加したいです。



次回、どのような進め方を希望されるか（回答数 106）

Q．本ミーティングをよりよくするために、ご意見やご要望など、どんな細かいことでもお聞かせください。

【一部抜粋】
・今年の進め方でいいと思いますが、分科会で時間は長すぎるなと感じたので、途中途中に休憩を挟んでくれると嬉しいです。あとは、文句なしでサイコーです。ありがとうございました。
・とても勉強になりました。企業系のブースにあまり回れなかったので残念でした。企業が環境で利益を出すことを知りたい。
・分科会、全体会での話が聞こえにくいこともあったので、マスクの事もあるので、もう少し考えることができたら良かった。とても熱い会となった。ありがとうございました。
・もし、時間があるのであれば全体会で人をローテーションして多くの人と会話をできればいいと思った。
・会場が寒かったです。ブースの情報をWEBサイトでまとめる。特設サイトを作るなどすると分かりやすかったです。
・行政、企業の参加を増やしたほうが良い。
・分科会の時間がもう少し欲しかったです。
・全てのブースを回りきれなかったので、案内のパンフレットなどあれ場合と思います

- まとめ -

・全体的に非常に満足度が高く、満足度 100 点の人がほとんどであった。
・特に世代を超えて交流ができたこと、学びが相互に深まり、それぞれのモチベーションにつながったという、感動が伝わるコメントも多くみられた。
・ブース展示、分科会、全体会、それぞれに満足度高く、参加した大人からの中高生への賛辞も多かった。
・進め方やプログラムなどについては、時間や会場のキャパの限界を指摘する声もあり、会場の拡大と分散による時間的な制約を減らす取り組みも必要と思われた。

上記から、コロナ対策の中で人数を絞った開催ではあったが、多くの方の満足と次につながる学習や人脈作りに貢献できたことは、とても大きな成果だと言える。多世代の交流の場ともなっており、継続して開催していくことで更なる環境教育の推進につながると確信している。

実行委員会でのふりかえり

【後日、おかやま環境教育ミーティング実行委員会でふりかえりと次回に向けての協議を行い、Keep（続けたいこと）、Problem（改善していきたいこと）、Try（新たに挑戦したいこと）で以下のとおり整理を行った。
【※以下、一部抜粋】

■Keep（続けたらいいこと）

・対面開催
・ブースツアー
・若者が活躍できる場づくり
・今回のような開催規模。多ければ良いものでもなさそう
・多様なテーマの分科会
・ブース出展や分科会は、完成度が高まっている。
　現状のままで良い
・10 代からの参加が多い現状
・10 代からの参加が多い現状
・多様な分野からのブース出展
・楽しい空気感、場づくり
・全体会での振り返りタイム、交流
・テーマに応じた分科会での交流
・ブース出展の間隔は広めに
・多世代のバランスの良い参加
・ブース出展する中高生が、
　自分の言葉でやり取りができていて、良かった

■Problem（問題なこと）

・分科会時、プロジェクタで投影する画面が見えない、また発言者の声が聞き取りにくい、隣の分科会の声が重なって聞こえるなどの課題
・休憩時間と昼食時間の短さ
・イベントの閉会時間が、17:30 は遅いかもしれない。17:00 はどうか
・今後、参加希望者や団体の増加が予想される中で、どのように制限をかけるか。会場の収容人数や収容面積や運営側の負担に応じた定員の算出が必要になりそう
・ブース出展数について、今回は、全てのブースを見て回ろうとすると丁度良い数、人によっては物足りなさを感じる数
・分科会のテーマ数、分科会の参加者数の設定
・大学生の参加者が少ない
・環境教育ミーティングのプログラム構成オリエンテーションやアイスブレイクなど短縮できないか
・会場の空調の設定温度について、人によって暑い寒いの感じ方は異なり、温度設定は集中管理でもあるため、どのように参加者に理解してもらうか
・分科会での実行委員と事務局の役割分担
・分科会会場。デジタルミュージアム、NHK、コンベンションセンターとタイアップして部屋を安く借りることが、できるかもしれない

■Try（試したいこと）

・来年度、節目となる環境教育ミーティング開催ゴールの検討、設定
・ブース出展や分科会における体験活動の復活
・懇親会の開催
・環境教育ミーティング開催時生まれたつながりの事後フォロー
・参加者同士のマッチングを支援できるような仕組み作り
・展示内容をアーカイブとして事後共有
・特別支援を必要とする人へ対応する体制づくり
・次年度の環境教育ミーティングでは、前年度のかんきょうひろば事業の成果報告や成果がかんきょうひろばの事業にどのように反映されたのか報告があっても良い
・ブースツアーのコンダクターを増やす
・岡山県北からの参加者を増やす
・スペースを借りて、ブースの展示内容を 1 日あるいは 1 週間の展示期間を設けて、どこかに展示しても良いのではないか
・企業に参加してもらう、企業と学校のマッチング
・マスコミへの広報

開催までのスケジュール＆実施プロセス

■実行委員会等開催スケジュール

5 月 23 日（月）17：00 ～ 19：00
第 1 回実行委員会
協議：委員長・副委員長の選出、開催目的、ゴールなど全体構成、
ブース出展・分科会
報告：今期の開催方針について、開催までの大まかなスケジュール
6 月　1 日（水）　関係者向け（ブース出展者等）開催案内について広報・参加者募集開始
6 月 15 日（水）17：00 ～ 19：20
第 2 回実行委員会
協議：新型コロナウイルス感染症対策、会場レイアウト、分科会の実施内容、
一般参加者募集方法
報告：ブース出展申込状況
6 月 28 日（火）/ 29（水）一般向け開催案内について広報、参加者募集の開始
7 月 11 日（月）17：00 ～ 18：50
第 3 回実行委員会
協議：会場レイアウト、当日の詳細スケジュール、当日の担当割振、分科会企画状況
報告：申込状況
8 月　5 日（金）10：00 ～ 17：30
第 9 回おかやま環境教育ミーティングの開催
9 月　7 日（水）17：00 ～ 19：15
第 4 回実行委員会（ミーティングのふりかえり、次回の開催に向けて）

■実行委員会メンバー

（実行委員）

環境団体	2 名
市民団体	1 名
民間企業	1 名
公益財団	1 名
行政	2 名
大学生	1 名
学校関係	3 名（中学校教員 2 名、教育庁・教育委員会 1 名）
合計	11 名

（岡山県担当者及び事務局）

県担当者	2 名（岡山県 新エネルギー・温暖化対策室 2 名）
事務局	3 名（環境学習センター「アスエコ」3 名）

環境教育の輪はますます広がります！
to be continued...